

米沢市 地域住民とのコミュニケーションを通じた公共交通の導入

1. 米沢市の抱える課題

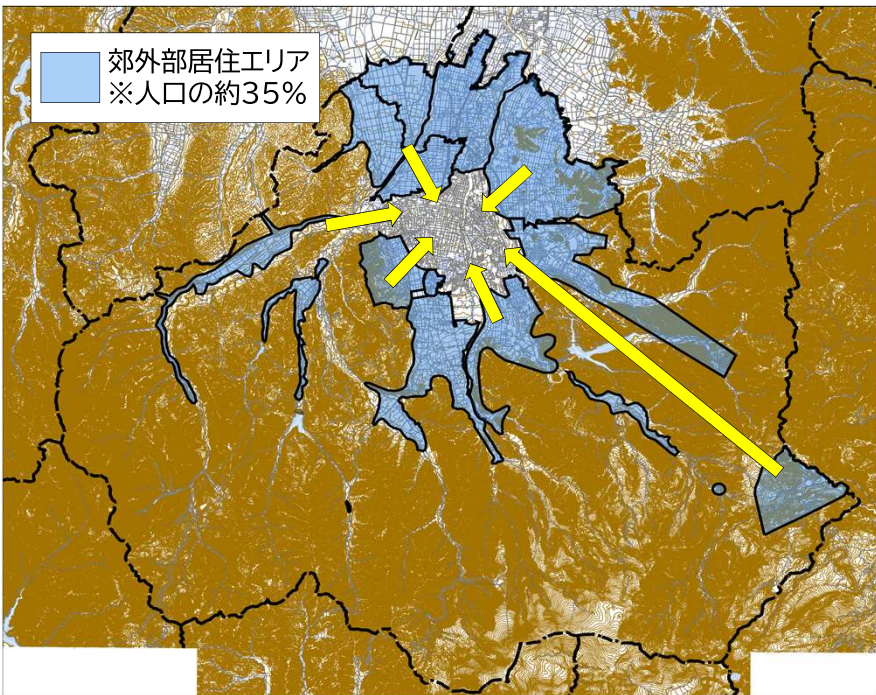
- ・人口74,816人(令和6年9月1日現在)の内およそ35%は郊外部に住んでいる。
住民の高齢化に伴う高齢者単身世帯の増加、免許返納者の増加、利用者減による民間路線バスの廃止等により、郊外部から市街地へのアクセスが課題となっている。
- ・公共交通の需要高まりに合わせて、行政側の公共交通運行に関する費用が増加していく。

＜米沢市地域公共交通計画＞策定
(計画期間令和4年度～令和8年度)

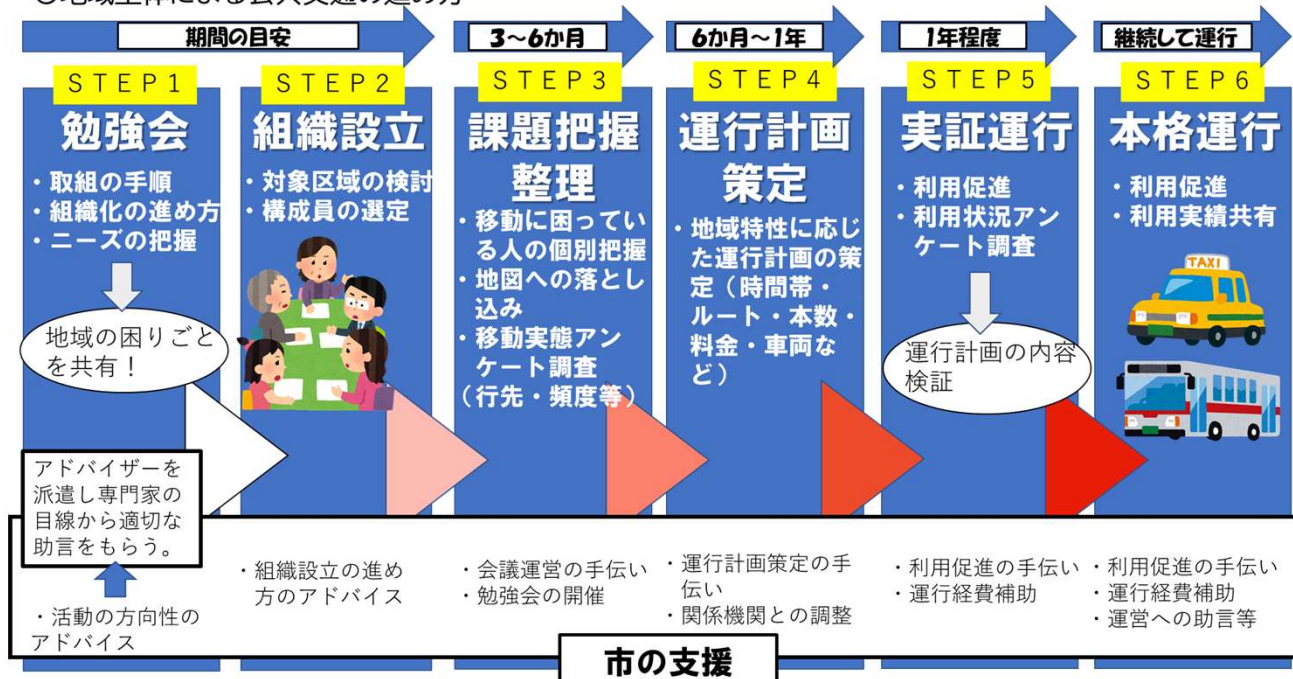
- ・地域特性や移動実態に応じた適切な公共交通の設置を行い、効率的な運行を行うことで、市民に選ばれる持続可能な公共交通を目指す。

2. 課題の解決手法

- ・地域が主体となり、最適な公共交通を検討する。
- ・検討に当たっては行政が支援を行う。
- ・有識者を公共交通アドバイザーとして招聘する。



○地域主体による公共交通の進め方



各地区で開催した勉強会の様子

3. 実績と成果

- ・現在米沢市では郊外部の6地区でのりあいタクシーを運行しており、4地区で公共交通の見直しに向けた取り組みを進めている。
- ・地域が主体となることで、行政の調査だけでは見えてこない地域のリアルな需要が拾える。
⇒必要最低限の運行内容を検討することが出来るので無駄の少ない運行を行える。
- ・地域の代表者が組織を作り取組を進めることで、地域全体として自分事のように公共交通について考えることができる。
- ・地域と行政で二人三脚で進めることで、協力関係が生まれるので行政単独で進めるよりもスムーズに公共交通の取組を行うことが出来る。
- ・運行開始後の見直しについて、地域が主体となることで利用者も意見が言いやすくなり、需要に応じた最適な運行の見直しを行いやすい。